

箕面市教育大綱別紙＜2024＞(案)

学校教育 子どもたちの「生きる力」と「つながる力」を育みます

① 小中一貫教育のさらなる推進

全市的に小中一貫教育を充実していくため、「箕面市小中一貫教育推進計画」に基づいて、教育委員会、学校、家庭・地域の観点ごとに方針を掲げ、小中一貫教育推進コーディネーターの配置や小小交流・小中交流の積極的な実施、中学校単位の学校協議会の導入等の取り組みを段階的に実施していく。また、情報活用能力に含まれるプログラミング的思考を育むため、9年間の連続性のあるカリキュラム(情報活用能力系統表)を策定する。

② 児童生徒を誰一人取り残さない支援

学校になじめない、学習についていけない、病気等による長期欠席、生活困窮家庭や日本語を母語としないなどの児童生徒において、必要となる学習手段、居場所づくり、不登校やいじめの未然防止等の支援を実施する。

児童生徒が持つそれぞれの個性や力を最大限成長させるため、支援の必要な児童生徒については、箕面市支援教育方針に基づいて、全ての小中学校への通級指導教室の設置に留まらず、通級指導を利用する児童生徒数の多い学校については、通級指導教室の担当教員の複数配置等、支援教育の充実のための取り組みを行う。また、これまで蓄積してきた個々の学びのデータ分析に先端技術(AI)も活用し、児童生徒の9年間を通じた継続的な学習支援を行い、一人ひとりの確かな学力の定着を目指す。

③ 体力向上を図る取り組み

児童生徒の運動習慣を育み、体力づくりを図るため、全領域をバランス良く履修できる市内統一の9年間のカリキュラムを策定し、当該カリキュラムに基づいた体育科の授業を進める。また、保育所・幼稚園とも連携しつつ、学校における体育授業を充実させる取り組みを実施する。

令和8年度から全小学校で民間プールを活用した水泳指導の実施を視野に入れた体制づくりを進める。また、学校部活動については、地域の指導者による地域クラブ活動への移行に向けた検証を進める。

④ 教員の授業力・指導力のさらなる向上

教員の授業力・指導力の向上を図るため、5名の教育専門監が全小学校を対象とし、若手教員を指導する中堅教員に直接助言する。また、中学校の授業改善に向けた各教科の授業研究の推進に関する支援を実施する。

教頭事務支援員や教員事務支援員を配置し、働きやすい学校運営体制を整え、学校の組織力向上を図るとともに、教員の指導力向上、児童生徒の学力向上に繋げていく。

⑤ 英語教育の強化によるグローバル人材の育成

英語で自分の考えを伝え、他者とコミュニケーションを図れるように、英語指導助手や英語専科加配の教員を活用したチームティーチングや1クラスを分割した少人数での授業を行う。また、英語での発話量を増やすため、複数の英語指導助手とのチームティーチングを行い、英語を使用する「目的」「状況」「場面」を明確に設定したスピーチや会話をする授業をとおして、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの技能をバランスよく習得させる。さらに、多文化理解も深めながら、英語で自分の考えを表現する実践的なコミュニケーション能力の基礎を築く。

子育て施策 家庭・学校園所・地域で「つながる力」を育みます

① 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援

「子育て世代包括支援センター」から移行した「子どもセンター」において、全ての妊産婦・子育て世帯を対象に妊娠期から子育て期にわたる伴走型の相談支援、支援が必要な妊産婦・子育て世帯等への家庭支援サービスを盛り込んだサポートプランの作成による計画的かつ包括的な支援を行う。ターゲットを絞った子育て支援情報の発信や予防接種の自動スケジューリング機能等を有した子育て応援アプリを導入し、親子での外出機会の促進や子育て世帯の日々のスケジュール管理等の利便性の向上をめざし、子育てしやすい環境のさらなる整備を図る。

3歳6か月児健診後から就学に向けた切れ目のない支援体制の強化に向け、国が進める5歳児健診の実施について検討を進める。

② 子育て支援と外出促進

子育て応援アプリを導入しアンケート機能を活用して利用者のニーズを把握するとともに、子育てに必要な情報を切れ目なく発信する。保護者が気軽に相談できるよう、引き続きICTも活用した相談体制を整える。

また、子育て世代の親子が孤立感なく日々過ごせるよう、令和6年度から令和8年度までの「おひさまルームみのお」閉室の間、新たな開催場所を追加して出張子育てひろばの開催回数を増やすとともに、市内公園での「幼児ユニット(幼児向け遊具)」の設置を広げ、親子が交流する機会を今後も数多く設定する。

③ すべての子どもが安心できる保育・幼児教育の実施

公立・民間を問わず、市内保育士・幼稚園教諭・保育教諭等の子ども理解力・実践力・連携力の向上を図るため、保育・幼児教育センターにおいて、保育者に対する保育・幼児教育等に関する研修を企画・実施する。また、支援保育・支援教育のあり方や保育・幼児教育から小学校教育への円滑な接続にかかる調査研究を進めることで、保育・幼児教育の質を高める。

年々深刻さを増す保育士不足への対応として、民間保育施設における新たな保育士確保と現に働く保育士の離職防止の双方の観点から、生活支援補助金や森町地域に特化した新たな離職防止対策等の施策の効果検証を行い、保育ニーズや民間保育施設の定員確保の状況に応じた保育士確保策を推進する。公立園においても計画的な採用を実施する。

保育所入所申込と入所選考のオンライン化を進め、保護者の利便性向上と業務の効率化を図る。

④ 貧困の連鎖の根絶

子ども成長見守りシステムのデータや教育・福祉等の関係機関の情報をもとに、貧困等の要因により支援が必要な子どもの早期発見に努め、関係機関間で支援と見守りを続けていく。

このうち、特に生活支援や学習支援が必要な子どもたちについては、生活習慣や学習習慣、社会性など、将来自立するために必要な能力を身につけるための支援を行う。令和7年度に向け、支援の対象者について、貧困に加え、養育環境等に課題を抱える子どもや学校や家庭に居場所のない子どもも対象とするよう検討を進める。

生涯学習・社会教育 「いつでも・どこでも・だれでも、学びたいことを学ぶ」を育みます

① スポーツを通じた健康長寿への取り組み

幼児から若者、高齢者に至るまで、すべての世代の人たちがスポーツを楽しめるよう運動機会の充実を図り、運動習慣の定着と体力向上を目指す。勤労・子育て世代のスポーツ人口拡大と健康長寿社会の実現を目指して実施してきた「大人のスポーツ・トライアル事業」はこれまでの事業実績を踏まえ、箕面市立総合運動場指定管理者の民間ノウハウを活かした自主事業として引き続き継続実施し、青年期の各種スポーツ教室への参加やスポーツ団体への加入を促していく。幅広い世代が気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツイベントを開催することで世代間交流を促すとともに、すべての世代のかたがスポーツに親しむ場を創出していく。

また、令和6年4月に開業するスケートボードパークや令和8年度には全小学校の水泳授業の受け皿となり、一般市民も利用できる室内温水プールの開業を予定するなど、市民のニーズに応じた新しくスポーツを気軽に楽しむことができる魅力のあるスポーツ施設の整備・検討を進めるとともに、既存のスポーツ施設については、スポーツ施設マネジメント計画に基づき、利用者が気持ちよく安全にプレーできる環境を確保するための設備・備品の充実を図っていく。

② 図書館サービスの充実

図書館利用登録の電子申請を開始し、図書館を利用したことがない市民が来館しなくても電子図書館を利用できるようにし、利用者数の増加につなげる。引き続き「電子図書館使い方講座」を開催するなど、活用方法の周知を図り、利用ニーズに沿った書籍の更新を定期的に行うことにより継続的な利用を促進し、誰もが読書できる環境づくりと市民の学ぶ機会の充実をはかる。

また、船場図書館での大阪大学との連携講座の実施や、西南図書館での親子で楽しめるイベントや子ども向け体験イベントの開催による親子で過ごせる居場所の充実により子どもや保護者同士の交流を推進するなど、さまざまな学びと交流の場を提供し、図書館サービスの充実を図る。

③ 生涯学習の場の充実

生涯学習講座やシニア塾などを通じて、受講者同士が交流することで、講座後のグループ活動への加入など学びの場の広がりや継続に繋げる。また、乳幼児や子ども向けの生涯学習講座を企画して、幅広い年齢層が施設を身近に感じ、訪れていただく機会を設ける。オンラインでの講座開催や、アーカイブ配信を行い、勤労世代も受講しやすい講座開催を継続する。

大阪大学、大阪青山大学など包括協定を締結する各大学との連携による講座等を実施するとともに、メイプル文化財団や国際交流協会等と連携した講座やイベントの実施により、国際理解の推進や芸術文化活動の振興の取り組みを進めることで、市民が学びを深め、活かす場を提供する。

令和6年度にリニューアルオープンする新しい郷土資料館を拠点に、魅力ある展示や市民参加型イベントを定期的で開催することで、市民が気軽に郷土の歴史に触れ、郷土愛を育み、新たな箕面の魅力を発見できる場を提供する。また、史跡の保護・復旧や、見やすい案内看板の設置を進めるとともに、史跡巡りのイベントを開催することで、市内各地の旧跡や文化財について興味を持っていただく機会を増やす。